

教育センター・ニュース

Education Center, Tottori University

NEWSLETTER No.6

第 6 号 2011年 6月 10日発行

目 次

- ・教育センター全体の活動（新入生学習相談室・ふれあい朝食会学習相談） ----- 1
- ・教育開発部門の活動（米子地区教育アンケート調査報告/教育フォーラム参加報告/教員の着任） ----- 1
- ・外国語部門の活動（TOEIC結果の分析/学長経費プロジェクト/教員の着任） ----- 2
- ・健康スポーツ部門の活動（スキー実習/トレーニングルーム使用方法説明会/附属学校教育支援/講演会） -- 3
- ・教職教育部門の活動（教職ポートフォリオの開発/教員職免許状更新講習/部門長の着任/他） ----- 4
- ・関係教員名簿

教育センター全体の活動

●新入生学習相談室・ふれあい朝食会学習相談

教育センターでは新入生対象の「学習相談室」を4月3日（日）に終日開設しました。当日は教養科目等の抽選マークシートの提出締め切り日であったこともあり、新入生の約17%に当たる200名から相談があり、盛況でした。相談内容は教養科目の履修方法（56.0%）、履修表の記入方法（42.5%）、教職科目の履修方法（19.5%）についての相談が多く見られました。



また、4月8日（金）～14日（木）の「ふれあい朝食会」では教育センター主催の「学習相談コーナー」を全期間にわたって開設しました。毎朝、常時2、3名の教育センター教員が特設ブースに待機し、学生の相談に対応しました。期間中13名の相談があり、相談内容は教職科目の

履修方法、専門科目の履修、テキストの購入、学務支援システムの使用に関する質問など多岐にわたるものでした。



教育開発部門の活動

●米子地区6年一貫教育に関するアンケート調査の報告

2010年12月21、22日に医学部医学科1～3年生を対象として米子地区6年一貫教育に関するアンケート調査を行い、その結果について集計・分析を進め、2011年2月に報告書としてとりまとめました。分析の結果、いずれの学年についても、満足度の増加と不満度の減少が確認され、2009年度の調査で明らかになった問題点の解消が窺われました。他方、1) 多くの質問項目において「どちらかという満足」が上昇してい

るものの、「大変満足」はむしろ減少していること、2) 学年別に比較した場合、前回・今回とも1年次の満足度が比較的高い反面、2年次に進級してから満足度が下落していること、3) 満足度が大幅に上昇した授業科目がある一方、前回調査と同様の不満が依然として表明されている授業科目も存在すること等、今後改善が期待される問題が示唆されました。

●第17回大学教育研究フォーラム参加（3月17～18日 京都大学・吉田キャンパス）

フォーラム第1日目（3月17日）の午前は、個人発表（9:00-11:00）と小講演（11:00-12:00）が行われ、FD・授業公開研究部会に出席しました。この部会では、阿南高専の松本高志氏による、四国地区のSPODを活用したTP（ティーチング・ポートフォリオ）の取り組み報告、北海道教育大学・瀬川良明氏のFDマップに基づくFD実践紹介、横浜国立大学・安野舞子氏による「授業コンサルテーション」の実施とその効果検証の試みの報告、和歌山大学・吉田雅章氏のFD活動の比較による概念整理という4つの報告がなされました。特に、安野氏の報告は、22年度前期の試行の事例報告で、学生へのフィードバック・アンケートの結果等から、学生と教員の態度変容は見られるが、1科目ごとに4、5年に1度くらいで行うのが継続性につながる、という結論が参考になりました。続いて、小講演は、広島大学・丸山恭司氏の院生のプレFDの実践報告で、初任者研修実施に際しての参考となる情報が得られました。

1日目午後（13:00-17:00）は、東北関東大地震の犠牲者への黙祷で始まり、シンポジウム「単位制度から見る教授学習・カリキュラム」で、5人の提題者が発表しました。大学評価・学位授与機構の森利枝氏は、米国での単位制度の歴史と現状を説明しました。米国では、「1単位45時間」が金科玉条とはされてはいないが、連邦政府が連邦奨学金・受給資格の適格認定に関連して、最近、厳格化を求めている、という報告が印象に残りました。京都大学の溝上慎一氏は、日本の大学生は一般に授業外学習をしなくなっているが、キャリア・デザインの観点等の成長指標として授業外学習の重要性を強調しました。続く3者は、ユニークなカリキュラムの事例報告であり、京都大学の森本剛氏は医学教育でのモジュール制カリキュラムの実態を、広島大学・伊藤浩行氏は工学部の数学教育での週

複数回授業、成績更新型履修等の新しい試みの事例を、また創価大学の澤登秀雄氏は小数精鋭を育成するオナーズ・プログラムの実践例を、それぞれ報告しました。15週確保に止まらない「単位制度の実質化」の多様なあり方を知りました。

2日目の午前中（9:00-12:00）も個人研究発表と小講演が行われ、FD・授業公開部会ではTP（ティーチング・ポートフォリオ）に関する3名の報告を聞きました。佐賀大学・皆本晃弥氏、大阪府立高専・北野健一氏、芝浦工業大学・ホートン広瀬恵美子氏が、それぞれの勤務大学でのTP導入とその結果、今後の課題等を報告しました。TPは教員の「教育業績記録」で、「教育論文」に匹敵するが、いくつかの大学・高専などで徐々に取り組みられている様子が伺えました。小講演では、熊本学園大学の遠藤隆久氏が「基礎演習」で『西の魔女が死んだ』というファンタジー小説を教材にして、「成長」を学生に実感させようとする授業展開の事例報告を行いました。鳥大の読書ゼミにおける「授業目的」と関連する内容でした。

●新任教員の着任

4月1日付で、橋本隆司教授が着任しました。
(部門長：田畑博敏)

外国語部門の活動

●1年生のTOEIC結果の分析作業終了：5月と12月のスコアの比較

1年生全員に義務付けられている2回のTOEIC受験（5月と12月）の結果について、2月初旬に分析作業が終わり、その分析結果が判明しました。2回とも受験した学生986人中、スコアが上昇したもの：606名、同じだったもの：30名、下がったもの：350名で、同じか上昇した学生は全体の65%でした。また、その内訳をみると、100点以上上がった学生は101名で、上昇した606人の17%が100点以上上がったこととなります。逆に、100点以上の大幅ダウンという学生も23名いました。これらの結果から、取り組み方次第では大幅なスコアアップが期待できる半面、一回の成績に満足して努力を怠る学生がいることが判明しました。今後、こうした学生に対するサポート体制の強化が望まれます。

●平成22年度学長経費プロジェクトの報告書の完成

3月中旬、22年度学長経費プロジェクト『学力差に応じた TOEIC 強化クラスの設定とその効果の検証』の報告書作成作業が完了しました。今回のプロジェクトの目的は、1) 1年次 12月及び2年次 11月の2回の TOEIC 試験結果を用いて新英語カリキュラムのもとでの1年間の授業効果を分析する、2) 1年次 12月段階における TOEIC スコアに基づいて、工学部最上位2クラス及び同レベルの農学部 1クラスに対して特別サポートを行い、その学生の TOEIC スコアの変化からその効果を検証する、の2点でした。これらのクラスに対する特別対策の結果、83名中26名の学生が500点台に到達しました。二年生全体の平均点が下がる中で、これらのクラスで英語力の向上が認められたことは、適正な教材の選択と適切な指導のもとに学生が努力すれば、さらなるスコアの上昇が期待できるということを意味しています。今後、より効果的な教授法を目指して、更なる努力をしていきたいと思えます。

●平成23年度学長経費プロジェクトの採択

先のプロジェクトの成果を踏まえて、23年度も『学力差に応じた TOEIC 強化クラスの設定とその効果の検証(第2部)』という名称のもとに、プロジェクトを再申請し採択されました。平成22年度の総合英語の最上位クラスを中心とした TOEIC 強化クラスの実験的導入結果を踏まえ、平成23年度は、担当者を2名から4名に増やして教材選択や教授法など、TOEIC スコア向上に向けて、様々な取り組みを行って、その教育効果の再検証を行います。

●外国語部門に新任教員着任

4月1日付けで、シャーリー・リーンさんが着任されました。リーンさんはオーストラリア出身の女性で、主な職務内容は附属中学校で全学年・全クラスに対して週1回英語コミュニケーションの授業を担当することです。同時に、大学でも全学共通科目の英語を週2コマ担当されます。

(部門長：筏津成一)

健康スポーツ部門の活動

●スキー実習の実施

平成22年度のスキー実習は、平成23年2月21～24日の日程で大山ホワイトトリゾートにて実施しました。実習には22名の学生が参加しました。今年は積雪が豊富にあり、晴天にも恵まれたため、絶好のコンディションでスキー実習を行うことができました。本年度はゲレンデスキーを実施しましたが、来年度は生涯スポーツとしてのスキーを学生に実感させるべく、クロスカントリースキーを導入し、実習内容をさらに充実させる予定です。



●トレーニングルームの使用法説明会の開催

平成23年度の第1回トレーニングルーム使用説明会を5月28日に開催しました。

●附属学校園における教育支援活動

今年で3回目の実施になりますが、附属小学校低学年児童を対象とした「キッズスポーツアンドスタディサポート」と高学年児童を対象とした「教育センター陸上教室」を5月中旬より開始しました。

●講演等による地域貢献活動

境港市体育協会指導者研修会にて「学齢期におけるスポーツ経験の功罪」という題目で講演を行いました。

鳥取市宝木小学校にて「こどもの人生を豊かなものにスポーツのある人生」という題目で保護者、教師を対象に講演を行いました。

(部門長：福元和行)

教職教育部門の活動

●「教職ポートフォリオ」の開発

3月3日に第11回、4月13日に第12回（最終）のワーキング会議（学長経費による教育方法改善のプロジェクト）を行い、教員免許状を取得する学生対象の4年次後期「教職実践演習」開講（平成25年度）に備えて、「教職ポートフォリオ」の開発を終えました。自己評価シート、教職関連科目の履修記録表に加えて、教職図書リストや教職志望者のための読書リストを作成し、5月には2年次学生向け教職ポートフォリオ説明会を実施予定です。

なお、教育センター別館（教職教育部門）に、従来の「教職相談室」（小椋特任教員担当）とともに、5月からは「教職学習室」（上記リストの図書等および関連雑誌を配架）を開室し、教職志望の学生たちの相談・学習支援を進めています。

●教員免許状更新講習

3月2日、山根教職教育部門長・小椋特任教員・中尾教職教育係長が鳥取県教育センターへ出向き、来年度本学で実施予定の免許状更新講習の開設計画等を説明、意見交換を行いました。また、更新講習のQ&Aについて、充実を図るべく、さらに検討を進めました。

●介護等体験連絡会及び説明会の開催

3月15日、介護等体験連絡会を開催し、鳥取県取県社会福祉協議会及び附属特別支援学校の担当者を交え、平成22年度の反省、平成23年度の説明会の予定等について協議しました。そして、4月14日に鳥取県社協及び附属特別支援学校から講師を招いて、平成23年度介護等体験参加者向けの第2回説明会を開催し、介護等体験の心

構え、申込方法等の指導・説明を行いました（なお、授業時間割で参加できなかった学生を対象に15日に別途説明会を開催）。

●教育臨床相談

小林（勝）准教授が以下の活動を行いました。

- ・カウンセリング12件、コンサルテーション9件、アセスメント3件、スーパーバイズ7件（そのうち臨床発達心理士資格修得のための事例検討2件、学校心理士・学校心理士補資格修得に関するスーパーバイザー2件）
- ・Cフレンズ（附属小学校）アドバイス4回
- ・個別療育として、隔週で3名の発達障害のある小学生の個別療育を開始
- ・個別移行支援計画作成アドバイス
- ・震災に伴う心のケア活動～心理士ネットワークで当面は関西に転居した被災者のメール相談

●教職相談

小椋特任教員を中心に、教員志望者に対して適性検査や相談を行いました。

●地域貢献

大谷准教授を窓口として、3月19日～4月12日に「らくがきハウス」を倉吉市図書館で実施の協力を行いました。

●新部門長の着任

4月1日付で、山根教授（地域学部地域教育学科）の部門長任期終了にとともに、新しく、塩野谷教授（地域学部地域教育学科）が部門長（兼任）として着任しました。

（部門長：塩野谷斉）

教育センター関係教員（○は部門長、*は兼務教員）

センター長：本名俊正

教育開発部門：○田畑博敏、吉野 公*、橋本隆司、後藤和雄、井上順子、永松利文、桐山 聡、武田元有

外国語部門：○後津成一、福安勝則、武田修志、サージャント・トレバー、松本雅弘、和田綾子、小林昌博、シャーリー・リーン

健康スポーツ部門：○福元和行、上野耕平

教職教育部門：○塩野谷斉*、小林勝年、柿内真紀、大谷直史

※ 外国語部門、健康スポーツ部門、学生生活支援部門、附属学校連携部門の兼務教員は割愛しています。



編集・発行 鳥取大学教育センター広報誌編集委員会 電話：0857-31-6775（内線2429）

E-mail：k-morimo@adm.tottori-u.ac.jp